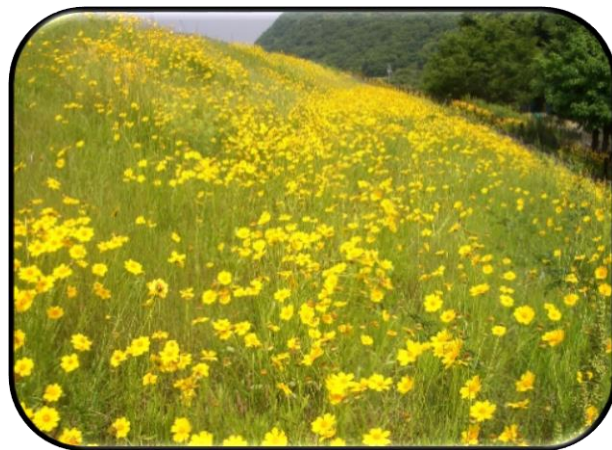


諏訪市に生育している特定外来生物 その3

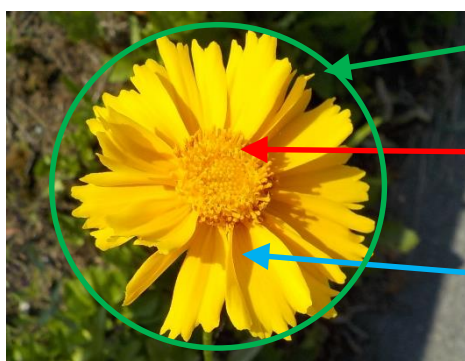
オオキンケイギク

- 分類 双子葉植物 合弁花類 キク科
- 生活型 多年草
- 原産国 北アメリカ
- 移入経路 明治時代中期に園芸用に輸入
※現在は外来生物法により本種の輸入や流通は規制



■特徴

【花・種子】 1つの黄色い花に見える部分（頭状花）は、小さい花（管状花と舌状花）が多数集まっています。頭状花は直径5～7cm程度、開花は5～7月、種子は8月頃からできます。花はキバナコスモスに似ています。1つの管状花が1つの種子になるため、多くの種子ができます。



頭状花
1つの花に見える部分は、
小さな花の集まりです

管状花
1つ1つが種子に
なります

舌状花
花びらの部分です



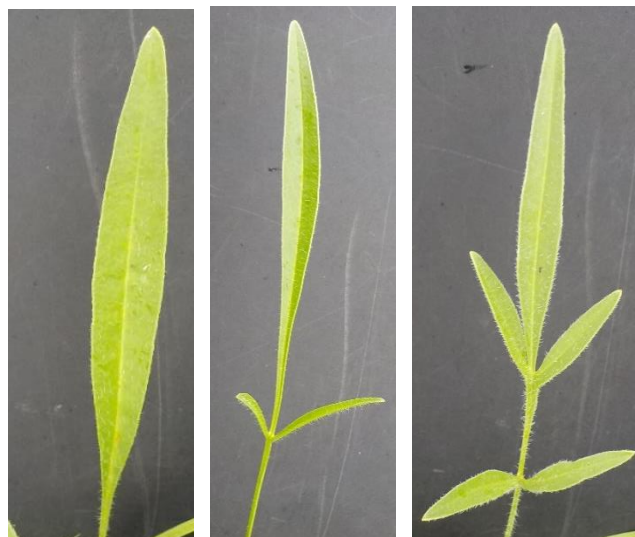
管状花が沢山集まっていて、
1つ1つが種子になります

【葉・茎】 根元から生える葉と、
茎から生える葉があります。
ほとんどが細長いへうのような形の



《株状になったもの》

葉ですが、
小さい葉が
分かれている
場合もあり、
必ずしも
全て同じ形では
ありません。



《様々な形の葉》

成長した茎は高さ30～70cmとなり、根元から生える葉とともに束になっています。多年草のため、2年目以降は株状になります。キバナコスモスは花が似ていますが、葉は深く裂けていて形が異なります。

■影響 河原などで繁殖し、もともと生育していた植物を駆逐して生態系に悪影響を与えています。観賞用に栽培されてしまっていますが、繁殖力が旺盛で駆除には多くの時間と労力が必要です。

■近縁・類似する種

日本の在来種には、オオキンケイギクと同じハルシャギク属の植物はありません。ハルシャギク、キンケイギク、ホソバハルシャギクなど似た種や園芸品種が多くあります。それらとの違いは、下記をご覧ください。

【参考】特定外来生物同定マニュアル(環境省)

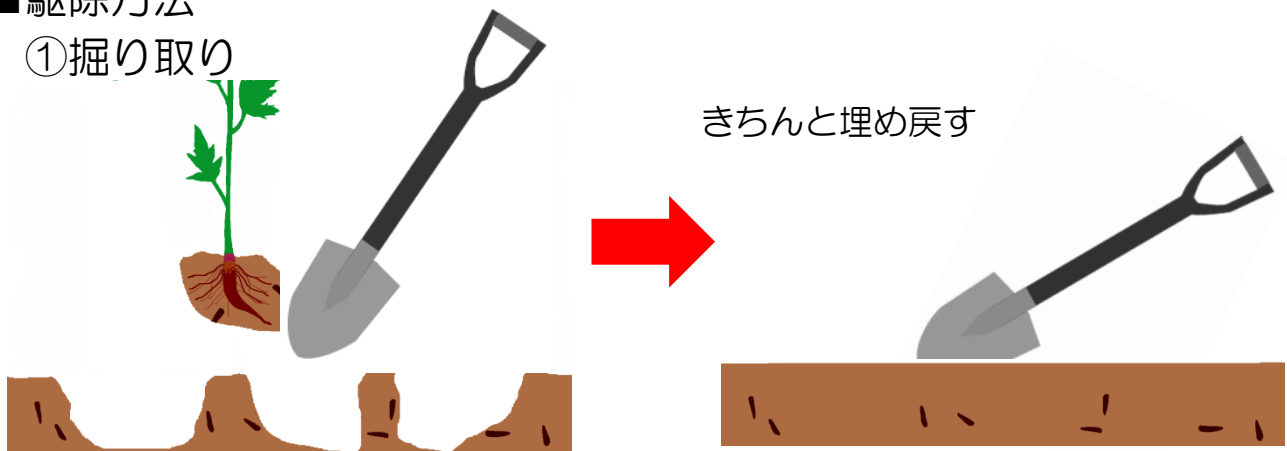
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html>

■駆除時期・注意点・駆除方法

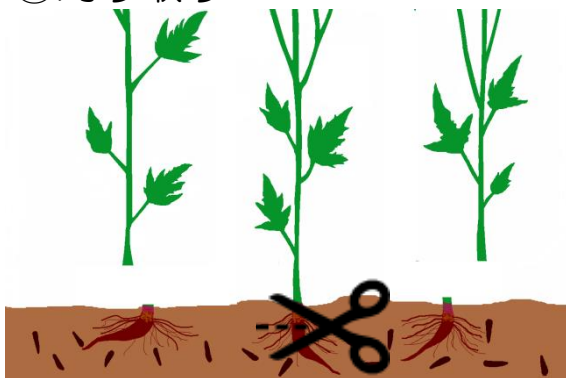
- ・刈り取った場合、残った根などから再び成長するため、根まで全てを除く掘り取りが効果的です。掘り取りできない場合は刈り取りも可能ですが、根本的な駆除にはなりません。いずれの方法も、作業時に種子が落ちて広がることを防ぐために、種子ができる前に行うことが大切です。
- ・種子は土壌内で数年間生きることができ、光が当たると発芽するため、駆除した場所からも翌年以降に生えてくる場合があります。そのため、数年間継続した駆除が必要となります。

■駆除方法

①掘り取り



②刈り取り



- ・できるだけ根本から刈ってください。
- ・掘り起こしてしまった場合にはきちんと埋め戻してください。

駆除したものは、他の場所に拡散しないように処分することが必要です。詳しい処分方法については、諏訪市役所環境課（電話0266-52-4141 内線214、215）までお問い合わせください。